

米歐亞回覧

第 3 号
編集・発行の会
米歐回覧の会
事務局

『米歐回覧の会』正式に発足！

一部有志による「米歐回覧の会」(仮称)の準備室ではかねてより入会希望者を募っていたが、多数の応募者があり、四月六日(土)午後六時半から国際文化会館において、入会申し込み者の初会合が催された。当日の時点での申込み者約八十名中四十数名が出席、その紹介者四十名も同席して行なわれた。

最初に泉三郎氏から本会代表としての趣旨説明があり、準備室の発起人としてこの会の設立に尽力されて来た山本季司氏、浅沼晴男氏、田川信人氏の三氏に幹事を委嘱したい旨の発言があった。

- 名称 「米歐回覧の会」とする (註 j i k k i s a l o n などの略称については現時点では特定しない)
- 目的 「岩倉使節の旅」並びに「米歐回覧実記」を素材にして、「温故知新」をはかり自由に語り合うことを目的とする
- 組織 代表は会を主宰する 幹事は代表を補佐する 内一名は会計監査を兼ねる
- 会費 年会費は、三、〇〇〇円とする 主として会報制作費、通信費に充当する
- 活動 年四回程度例会を開く 年四回程度会報を発行する
- 名簿 会員相互の交流、親睦などのため会員名簿を発行する
- 事務局 イズミ・オフィス内に置く



経過報告について

山本季司氏の挨拶から

「桃李ものいわざれど、下おのずから蹊をなす」という言葉があります。この会はこれに似たところがあるように感じます。二十年来「岩倉の旅」を続け、これまでに多くの著作やテレビ、都民カレッジの講義などを通じて、その旅の成果を発表されてきた泉三郎先生の周りには、いつの間にかさまざまな人が自然に集まって、人の輪がつくられてきました。とりわけ二回にわたった「映像の会」の反響は大きく、参加者の方々から多くの期待や助言が寄せられました。それを整理してみますと次の二つになります。

(一) 「岩倉の旅」と「米歐回覧実記」について、さらに深く詳しく知りたくなった。

(二) 「映像」は一部の研究者や好事家のものにしないので、ダイジェスト版をつくったり、ビデオ化、CD-ROM化をして、もっと多くの人にみせるべきだ。

そこでそうした要請に対応するにはどうしたらいいか、有志が集まって仮称「米歐回覧の会」がつくられたのです。それが発展して今日の発足に及んだという次第であります。

「米歐回覧の会」とは…

泉三郎氏の挨拶から



この会は「岩倉使節の旅」に興味をもち、その記録である「米歐回覧実記」に関心をいだく人の集まりです。この歴史的な大いなる旅と「実記」はまさに「温故知新」の宝庫であるといえます。この素材を媒体にして歴史を振り返り、現代の直面する問題についても自由に語り合おうという会です。

キーワードは三つです。第一は「岩倉使節の旅」と「米歐回覧実記」です。あくまでもこれがベースです。

二つ目が「温故知新」です。「古きをたずねて新しきを知る」、単なる懐古趣味じゃない、未来をみつめていきたい。

第三は「自由に語り合う」ということです。いろいろの意見、見方の人が共存して語り合う、そういう会でありたい、と希望します。

それから、会員になると何かしなければならぬとか、義務が生じるとかそういうことは一切ない…何かしたければする、したくなければしない、入会も退会も自由、あくまでも自主性を重んじる、そういう「のびやかな会」になればと願っています。

映像「岩倉使節の米欧回覧」の 試写会、盛況裡に終わる！

かねて作業がすすめられていた「映像：岩倉使節の世界一周旅行」のダイジェスト版が「岩倉使節の米欧回覧」（全三巻、計九〇分）として完成し、その試写会が四月六日（土）「米欧回覧の会」発足記念としておこなわれ、会場は定員をオーバーして補助席をだすほどの盛況でありました。当日の会場の雰囲気も伝えたために、同会者からのコメント及びアンケートの要旨を抜粋掲載させていただきます。



伊藤善市氏（東京女子大学名誉教授、帝京大学教授）
岩倉使節のメンバーが非常に若いことに驚きます。多くは二十代、三十代ですね。「旅人はもっているものだけをもち帰る」というゲーテの言葉がありますが、彼等は行く前ほどの程度の知識をもっていたのか、と考えてしまいます。

それから歴史にイフはないのですけれど、もし西郷さんが行っていただこうなったら日本の運命が変わったんじゃないか。また日本が違った文化に接した時の対応の仕方ですが、

と第二次が内燃機関で、そして今第三次が情報機器革命として進行中です。日本はその第一次産業革命以来、二〇〇年以上それを追いかけて来たのですが、使節が四〇、五〇年くらいあれば追いつけると予言しているところがありませんが、たしかに一時は非常に接近しました。が、戦争があつてガックリ落ちてしまつた。戦後またキャッチアップを懸命にやつてきたのですが、技術屋からすると残念ながら追いついていない。部分的には優れたものがあつても、マクロではダメですね。相変わらず技術導入をやっている。特に情報革命では随分遅れてしまつた。何故か一つには官僚機構が原因だと思います。岩倉使節が中心でその官僚組織もつくつたんでしようが、それがあの時代から進歩していかない。それからやはり日本人はロジカルでない、システムに弱い。そこに基本的な問題があるのではないかと、それを自覚してやっていたか、思っていないのではないかと思っています。

「米欧回覧の会」というのは、大げさにいえばこうした人類社会の基本問題を討議する、考える会ではないかと思ひながらみておりました。

アンケートから

豊富な銅版画と写真で使節団が辿つた道筋が当時のまま再現されて感心することしきりでした。（松原淑子さん 清流出版）

諸国で歓迎されたのは印象的、「両国親睦、貿易繁盛」という言葉が面白い。（奥山晃希氏）

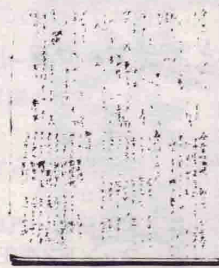
使節団派遣の時代背景を起点としたストーリーのすすめ方が、使節団の位置付けをはっきりさせており印象的だった。（近藤富夫氏 アグロス常務取締役）

文明の発展を逆流してみたこと、見ることに意義を再認識することができた。当時の人の感受性や洞察力に感銘を受けた。組織のトップが何をなすべきかを、あらためて考えさせられた。今、これと同じことを形を変えてすることが必要だと実感する。それがこの会の中でできると楽しいと思います。（小田泰夫氏 東芝 生活文化研究所顧問）

前回の長編に比し、九〇分に圧縮されたとは思えないほどうまく編集され、コンパクト化されていた。産業、国民の生活の差が比較しやすいようにまとめられている。バックミュージックもよいし楽しめる。（山田哲司氏 京王プラザホテル常任監査役）

明治は侍精神で米欧を見た。戦後は去勢されて影響されっぱなし。今日の日本も岩倉使節のように、欧州のしたたかさをみて猛省すべきだ。（行近壮人氏 日本画家）

映像もきれいで、テンポも早く小気味よかった。ナレーション、音楽とのコンビネーションもよい、疑似体験をした



齊藤寿一郎氏(オリエンタル
バイオ会長)

この数年で日本の三つの神話
が崩壊いたしました。一つは政治の安定という神話、二つが上昇経済と金融界の安全という神話、三つめが治安の安全という神話……戦後日本が世界に誇ってきた三つの神話が崩壊したのです。
日本は明治維新以来、四〇〇五〇年のサイクルで陰陽を繰り返してきました。維新よりちょうど百二十年、自分で自分の国を守りコントロールしないといけないところに来ていると思います。自分の国を自分で守らない国を誰が信用し尊敬するでしょうか。
今こそ「米欧回覧実記」に学び、まさに「温故知新」、自由に語り合わなくてはいけない時期であり、国家の方針国家のブランドデザインを考える時だと思えます。

塚本 弘氏(国民金融公庫理事
元JERTROニュー
ヨーク所長)

今日、九〇分のスライドを拜見して、本当に素晴らしいなと思えます。
個人的にはスコットランドの風景とかウイーンの雰囲気
が印象的で、使節は一年九カ月の旅でそういうものをも感じながら、非常にトータルに米欧をみてきた。そのあたりをうまく表現されていて大変感動いたしました。
三つくらいポイントをとりたいのですが、一つは明治の若い指導者は偉大だった、ものすごく短い間に本質をみぬいた。それはたとえば「ロンドンの勉強、パリの愉悅」という言葉に象徴されます。それから細部を非常によくみている。イタリアで「野には除かざる草あり」とありますが、そこからこの国のもつ本質をつかんでいる。ピスマルクに学ぶ外交感覚などもそうです。
二番目、岩倉大使がシカゴでチョンマゲを切る。新しい事態に柔軟に対応していく、その変身能力。やはり明治の人は偉かったなという思いがします。
三番目は演説の話で、たとえば伊藤の「日の丸演説」な

んかうまい。こういう面白い
喻をつかえるというのは今の政治家にみられない。あらためて明治の人の能力をかみしめる必要があるんじゃないか最近、日本はハウツーには成功してきたが、そういう能力にはかけている。
これから新しい日本をどのようににつくっていくのか、新しい使節団をくりだして世界にアッピールすべき時ではないか。



箱根町「ウツネルデン」街(箱根「ホテル」)

高田誠二氏(北海道大学名誉
教授「米欧回覧実記」の学際
的研究の共同編著者)
「私も、岩倉の旅と回覧実記」にのめりこんでいる一人であり、岩倉ツアーにも二回参加しています」と前置きして、最近の女子大生についてエピソードを披露しながら、泉センセイの今後の仕事のやりかたについてユーモラスに注文をつけ爆笑をよんだ。

思い：(岩崎洋三氏) ギャ
モンド担当証券取締役)

九〇分があつという間だった。一二〇年前がより身近かになった。余り関心がなかった時代だっただけに。この旅も自分で歩いてみたい。
(坂手美保子さん)

膨大な「実記」を理解するのには非常に役立った。広く、多くの人にみてもらいたい。
(細田秋彦氏)

新しい日本をつくるという明治人の気概に触れることができた思いがする。今、まさに日本がこれからすすむべき道を模索していくうえでも、この「米欧回覧」は大変な参考になるのではないか。
(大平 弘氏 足利銀行)

映像美しく、バックミュージックも良好。解説もわかりやすく、よく考えられていて感心しました。(鈴木幸夫氏
麗沢大学教授 元テレビ東京
常務 解説委員長)

居ながらにして歴史の勉強になった。次は四時間半の長編ものをみたい。(田村玲子
さん 政治評論家)

優れた筋書きでした。背景音楽の選択がよかったです。コンパクト版はテンポが軽快ですね。(岩崎次郎氏 淑徳大学教授 元IBM)

日本が米欧にいつまでたってもかなわないのは当り前なのだと思った。特に印象にのこったのは、久米邦武がローマで長安を感じていたこと。
(中山真希さん
白百合女子大生)

一行はおそらく進んだ文明の陰陽を肌で感じるものができたと思われます。陽のあたる側面だけでなく暗い文明の側面も。それは今の私たちにも共通する問題だと思います。
(溝淵 円さん シム)

アンケートのお応えは多く紙幅の都合でかなりの部分を割愛させていただきました。どうぞご了解下さい。(順不同)
尚、この「映像」は、泉三郎氏の情熱に共鳴した足立光正氏(Planning & Production社長)の絶大な協力によって制作されたものです。

〔映像スライドのご案内〕

岩倉使節の世界一周旅行

(オリジナル編)

- 第一部 <米国編>
 - 1巻 横浜出帆からサンフランシスコまで
 - 2巻 大陸横断・汽車の旅
 - 3巻 ワシントン滞在と東部回覧
 - 第二部 <英仏編>
 - 4巻 全盛期の大英帝国を往く
 - 5巻 英国社会の光と影
 - 6巻 麗都パリは天宮の如し
 - 第三部 <欧州編>
 - 7巻 二つの小国と新興ドイツ
 - 8巻 大国ロシアとスカンディナヴィア諸国
 - 9巻 アルプスの南へ、そして帰国
- 各巻30分・計270分

岩倉使節の米欧回覧

(ダイジェスト版)

- 第1巻 <米国編>
 - 1 使節団の出発
 - 2 新しい国アメリカの旅
 - 第2巻 <英仏編>
 - 3 最盛期の大英帝国を往く
 - 4 麗都パリとその底力
 - 第3巻 <欧州編>
 - 5 ドイツ・ロシアと小国回覧
 - 6 アルプスの南へ、そして帰国
- 各巻30分・計90分

事務局

〒192 八王子市元横山町1-14-16
 イズミ・オフィス TEL・FAX 0426-46-4513
 ミササ・オフィス TEL 0426-46-1949
 FAX 0426-45-8700

『米欧回覧の会』

★ 第1回例会について

参加者が「自由に語りあう時間」をなるべく多くとりたと思います。

この試みの結果をみながら、よろしいようでしたら、この方式で第二回は「英仏編」を、第三回は「欧亜編」を行ないたいと思います。

- 日時 7月6日(土) 18:15~21:00
- 場所 国際文化会館 講堂
- スケジュール 18:15~18:30 ワシントン、佐賀などの報告
 18:30~19:00 映像ダイジェスト版「米国編」上映
 19:00~19:15 泉三郎氏の解説および問題提起
 (コーヒーブレイク)
 19:20~21:00 コメント及びフリートーク

- 会費 2,000円 (ただし、お食事はありません)
- 申し込み 電話またはファクスで事務局までお願いします。参加資格は会員およびその紹介者とし、定員になり次第締切りますのでご了承下さい。

★ 映像講演会「岩倉使節の米欧回覧」～佐賀藩士久米邦武の見た世界～

佐賀新聞主催のもとに久米邦武のゆかりの地、佐賀で地方最初の「映像講演会」が行なわれることになった。

- 日時 6月1日(土) 13:30~16:30
- 場所 アヴァンセ(佐賀市内)
- 問合せ 0952-28-2128 (文化部)

★ 都民カレッジ「岩倉使節の世界一周旅行」講座

- 日時 7月4日(木)から18:30~20:00 毎木曜全10回
- 場所 「都民カレッジ」都庁内丸の内キャンパス
- 問合せ 0426-77-1234 03-3215-4321

★ 「岩倉使節の米欧回覧」ツアー

- 期間 6月16日(日)~26日(水)
- コース アメリカ東部諸都市巡遊(泉三郎氏同行・解説)
- 費用 438,000円
- 問合せ 日通旅行渋谷支店 03-3476-7783

★ 豪華客船「飛鳥」上海クルーズ

- TMC主催:テーマ:「飛鳥から世界へ」:泉三郎氏乗船・洋上講演
- 期間 8月17日(土)~25日(日)
- 問合せ トヨタツーリスト 03-3543-0418

* 編集後記

「米欧回覧の会」の正式発足、「映像」短縮版試写、ご披露はお蔭様で無事済みでした。本会の眼目である例会の第一回開催細目も上記の通り決まりました。多方面の第一線でご活躍の会員の皆さんやご紹介者が一堂に会し、泉三郎氏を囲み、岩倉の旅や「実記」をベースに「温故知新」、自由に語り合うのが目的です。会員の皆さんのご協力によって、ユニークで楽しい集いにしたいものです。

終りに本会とは直接関係はありませんが、興味ある催しのお知らせをひとつ。ご一覽をおすすめいたします。主催・久米美術館(山手線目黒駅西口一分)「展覧会・岩倉使節団が見た米欧」総集編(日時・平成八年四月二十六日(金)~六月九日(日)) (幹事・山本季司、浅沼晴男、田川信人)